

2022 年度

(令和4年度)

保健管理センター業務報告書

第35号

明 海 大 学

浦安キャンパス保健管理センター

目次

I	2022 年度業務内容	1
II	学生の健康管理	2
1	学生定期健康診断	2
2	健康診断証明書の発行について	2
III	教職員の健康管理	3
	教職員定期健康診断	3
IV	保健管理センター利用状況	4
1	学生	4
2	教職員および来学者	4
V	救護	5
1	救急搬送者数	5
2	オープンキャンパス	5
3	明海祭	5
4	入学試験	5
5	空手道大会	5
VI	学生相談室	6～14
VII	トレーナーズルーム	15～16
VIII	保健管理センター概要	16
1	開設	16
2	施設	16
3	関係職員	16

I 2022 年度業務内容

入学式	保健管理センター利用オリエンテーション	
健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学生定期健康診断 [全学生] ・学生定期健康診断事後措置 [健康診断結果通知 Web 配信・保健指導等] ・教職員定期健康診断 ・教職員定期健康診断事後措置 [健康診断結果通知書配布・Web・電話での受診勧奨・産業医面談 等] ・教職員特定健診後保健指導 [東京臨海病院：保健師による保健指導] ・健康診断証明書 (S. I. S.) 発行に係る書類審査 ・新型コロナウイルス関連の業務 [自宅待機指示・学内濃厚接触者の特定・消毒液補充 等] 	
救護	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式・学位記授与式 ・入学試験・大学入学共通テスト ・サマーキャンプ【中止】 ・オープンキャンパス ・明海祭 ・空手道大会 	
健康教育	研修会	・教職員メンタルヘルス研修会
	啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ・季節性感染症 ・新型コロナウイルス感染症 ・熱中症 ・禁煙サポート活動 等 [巡回指導および個別相談]
健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ・健康（からだどころ）に関する相談 ・新型コロナウイルス感染症に関する相談 ・セルフケアマネジメント ・受診勧奨、紹介状作成 等 	
応急措置	<ul style="list-style-type: none"> ・応急処置及び医療機関搬送・救急車同乗 ・行事に伴う救急バッグ貸出 	
学生相談室	<ul style="list-style-type: none"> ・UPI（精神健康調査） ・カウンセリング 	
トレーナーズ ルーム	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する相談及び運動指導 ・教職員健康診断後の健康指導 	
情報処理	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理基礎資料の作成 ・業務報告書の作成 ・各種統計表作成 ・ホームページ更新 	
健康診断書審査	<ul style="list-style-type: none"> ・特別聴講生・研究生・科目等履修生・留学予定者・別科生 	

II 学生の健康管理

1 学生定期健康診断 4/11. 4/12. 4/13. 4/14. 4/15 ※4/15（保健医療学部及び予備日）

(1) 受診数・受診率 2022年5月1日 在籍数

所属		在籍数	受診数	未受診数	受診率 (%)
学部	1 学年	992	938	54	94.6
	2 学年	1091	936	155	85.8
	3 学年	1008	876	132	86.9
	4 学年	978	765	213	78.2
	合計	4069	3515	554	86.4
大学院		50	34	16	68.0
別科		8	6	2	75.0
総合計		4127	3555	572	86.1

(2) 結果

有所見基準：BMI40以上/15以下、視力片眼0.4以下、尿蛋白+以上、尿糖±以上、胸部レントゲン要精密検査/要治療、内科診察健診医所見あり

項目	実施数	異常なし (要経過観察含む)	有所見者数（未受験者を含む）
身長	3554	—	—
体重	3554	—	—
肥満度（BMI）	3554	3536	19
視力	1870	1728	142
尿（蛋白）	3542	3489	66
尿（糖）	3542	3508	47
胸部レントゲン	3554	3539	16
内科診察	3554	3533	22

※有所見者には、保健管理センター医師の指示により、問診で経過を確認する者、医師と面談の必要性がある者、早期受診を勧める者等、3通りの事後措置をとっている。2019年度より正確な事後措置実施人数を把握するため、重複者を引いた人数で有所見者数を算出している。

（例：問診・面談・受診が重複している→「3人」ではなく、「1人」としてカウント）

2 健康診断証明書の発行について

学生定期健康診断において各検査項目「異常所見なし」の学部生は、学生定期健康診断から約1ヵ月半～2ヵ月後（例年6月中旬頃）に証明書発行機S.I.S.（Student Information Service）から発行可能になる。学部生以外の大学院生・科目履修生・別科生は保健管理センターで個別に発行している。

「異常所見あり」の学生においては、システム上S.I.S.での発行が不可であるため、再検査を受けて「異常所見なし」が確認されるか、校医面談で「S.I.S発行可」となった時点で情報修正を行い、S.I.Sでの証明書発行が可能となる。再検査未受診・医師面談を希望しない学生については、保健管理センターで個別に健康診断証明書を発行している。

2022年度は、19件の手書きの発行依頼があった。

Ⅲ 教職員の健康管理

教職員定期健康診断 9/28. 9/29

(1) 教職員定期健康診断受診数及び受診率

所属	在籍数	定期健康診断 受診数	受診率 (%)	人間ドック等 受診結果報告数	総受診数	総受診率 (%)
教員	143	113	79.0	21	134	93.7
職員	159	134	84.3	19	153	96.2
計	302	247	81.8	40	287	95.0

(2) 結果 有所見基準：D 1（要精密検査）、D 2（要医療）

※F（要再検査）、G（要指導）：産業医指示があった場合に有所見を含む

検査項目	実施数			異常なし			有所見及び未検査者		
	教員	職員	計	教員	職員	計	教員	職員	計
身長	113	134	247	—	—	—	—	—	—
体重	113	134	247	—	—	—	—	—	—
肥満度	113	134	247	—	—	—	—	—	—
聴力 1000Hz	113	134	247	112	129	241	1	5	6
聴力 4000Hz	113	134	247	110	125	235	3	9	12
胸部レントゲン	113	134	247	111	130	241	2	4	6
血圧	113	134	247	84	105	189	29	29	58
貧血検査	112	134	246	111	124	235	2	10	12
肝機能検査	112	134	246	111	132	243	2	2	4
血中脂質検査	112	134	246	107	131	238	6	3	9
血糖検査	112	134	246	112	130	242	1	4	5
尿(糖)	113	133	246	109	128	237	4	6	10
尿(蛋白)	113	133	246	112	130	242	1	4	5
心電図	113	134	247	113	133	246	0	1	1
産業医判定	113	134	247	98	114	212	15	20	35

IV 保健管理センター利用状況

1 学生

(1) 月別利用者数（実人数）

月 所属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年生	17	10	28	42	2	26	23	17	15	5	2	0	187
2年生	13	6	16	19	1	10	10	11	10	4	0	0	100
3年生	18	13	21	31	1	18	8	10	7	4	2	0	133
4年生	14	9	6	25	3	16	7	7	6	3	1	3	100
別科生	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
大学院生 研修生 科目履修生 特別聴講生	1	0	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	9
合計	63	38	72	121	9	72	48	45	39	16	5	3	531

(2) 月別休養室利用者数（実人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
休養	25	5	17	15	0	0	17	17	8	4	1	1	110

(3) 診療科領域別の休養室利用者数（実人数）

領域	内科	心療内科	婦人科	外科	整形外科
休養理由	56	55	13	1	2

2 教職員および来学者

(1) 月別利用者数（実人数）

月 所属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	5	2	4	0	0	1	2	1	3	1	0	0	19
職員	1	1	3	5	4	4	7	4	11	3	3	4	50
教職員 合計	6	3	7	5	4	5	9	5	14	4	3	4	69
来学者	0	1	0	0	1	0	0	4	0	4	4	0	14
総計	6	4	7	5	5	5	9	9	14	8	7	4	83

(2) 月別休養室利用者数（実人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
休養	1	0	2	1	0	0	0	0	1	3	0	1	9

V 救護

1 救急搬送者数

月別救急要請件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救急	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3

2 オープンキャンパス 4/2. 5/29. 6/19. 7/10. 7/24. 8/7. 8/21. 9/25. 10/23. 3/26

救護者 1名 (8/7)

3 明海祭 11/12. 13

救護者 5名

4 入学試験

① 10/1. 10/9. 10/24. 10/30. 11/20. 11/27. 12/18. 2/2. 2/3. 2/20. 2/27. 3/1. 3/2. 3/16. 2/2. 2/3

救護者 0名

② 大学入学共通テスト 1/14. 1/15

救護者 3名 (1/14)

5 空手道大会 2/26

救護者 4名 (軽傷 3名、1名は要受診のため帰宅)

VI 学生相談室

概要

学生相談室は、第二管理・研究棟 2 階保健管理センター内にあり、カウンセラー4名で相談活動を行っている。主な活動としては、学生や保護者を対象とした個別相談（対面・オンライン・通話・メール）、教職員を対象としたコンサルテーション、コミュニケーションスペースにおけるサポートなどが中心である。状況に応じて、休養室でのベッドサイド対応、家族からの相談、オープンダイアログなどが行われた。ピアサポート活動や合宿型研修は、今年度も社会情勢に鑑みて、実施されなかった。

1 相談業務

(1) 開室時間と担当カウンセラー

平常授業日：月～金曜日の週 5 日開室

夏季および春季休暇中：1～2 日／週開室

カウンセラー4名（兼任1名、非常勤3名）で運営された。

表 1 カウンセラー担当表

曜日	開室時間	担当カウンセラー
月曜日	9：00～17：50	林 哲也 樋口 倫子
火曜日	9：50～17：50	遠藤 浩子 樋口 倫子
水曜日	10：40～17：50	遠藤 浩子
木曜日	9：00～17：50	中嶋 一恵
金曜日	9：00～17：50	林 哲也 樋口 倫子

(2) 相談予約方法

相談は、基本的に予約制であり、メール、電話、または保健管理センターで直接可能である。しかし、緊急の場合は随時対応を行っている。相談は通常、同じカウンセラーが担当し、1回の相談時間は1時間から1時間半とした。

(3) 学生相談活動状況

新型コロナウイルス感染拡大により、2020年2月より、Zoomによる遠隔カウンセリングを導入した。今年度も、対面や電話による相談を併せて実施した。

2022年度の個別来談実人数は、116名（男子43名、女子73名）となり、昨年度の114名とほぼ同様に利用者が多かった。学部別では、外国語学部60名、経済学部13名、不動産学部20名、ホスピタリティ・ツーリズム（HT）学部16名、保健医療学部4名、大学院生1名、その他（教職員、卒業生など）2名であった（表2）。学年別では、1年生が35名、2年生31名、3年生30名、4年生17名、大学院生1名、その他（教職員、卒業生）2名であった（表3）。新入生の利用が最も多くなっているのは、例年どおりの傾向である。

新型コロナウイルスの感染拡大により、大学生の孤独化が目立った。キャンパスのオンライン化

や課外活動の自粛によって、仲間づくりの不全が生じたことが推察される。利用者の延べ人数が、大幅に増加したのは、通常ならば友人が担うはずの相談事を、孤立化により相談室が引き受けざるを得なかったことにも起因する。また、一方で、発達障害を有する学生の支援訴求も増加した。医療機関へのリファーや、学部学科の教員、職員との連携の機会が増加し、利用者数は過去最高を記録した。

表 2 2022 年度所属別来談者数

		性別		
		男性	女性	合計
外国語	日本語	5	8	13
	英米語	13	20	33
	中国語	4	10	14
経済	経済	7	6	13
不動産	不動産	9	11	20
HT	HT	3	13	16
保健医療	口腔保健	0	4	4
	大学院生	0	1	1
その他	卒業生	1	0	1
	教職員	1	0	1
	合計	43	73	116

表 3 2022 年度学年別来談者数

		性別		
		男性	女性	合計
学年	1 年	15	20	35
	2 年	7	24	31
	3 年	12	18	30
	4 年	7	10	17
	大学院生	0	1	1
	卒業生	1	0	1
	教職員	1	0	1
	合計	43	73	116

表4 学生相談室月別利用者数（コンサルテーション含む）

	2022年度		2021年度		2020年度	
	個人	集団	個人	集団	個人	集団
4月	90		54		15	
5月	114		46		28	
6月	112		81		32	
7月	112		55		47	
8月	23		6		36	
9月	46	COVID-19	43	COVID-19	39	COVID-19
10月	85	感染予防	75	感染予防	52	感染予防
11月	81	のため自粛	93	のため自粛	49	のため自粛
12月	87		72		26	
1月	51		35		32	
2月	23		27		13	
3月	8		31		9	
合計	832		618		378	

(4) 合理的配慮依頼（表5-1, 表5-2）

2021年6月に公布された障害者差別解消法は、改正法の施行に伴い、障害のある学生への合理的配慮は、すべての大学において努力義務から義務化された。そのため、本学においても、障害や疾患を持つ学生からの相談に学生相談室から担当教員あてに、「配慮を要する学生へのご支援のお願い」を作成し、授業などでの協力を依頼した。身体疾患については校医が、心理面についてはカウンセラーが所見をまとめ、学生の状況について共有をした。書面という形式によって、学生状況があいまいな伝達ではなく明示化して共有されることで、教員、学生の双方に安心感が生まれる効果も見られた。2022年度は、11通発行された。内訳は精神疾患が6通、病弱・虚弱が2通、発達障がい2通、その他1通となっていた。各科目担当教員に、各々の学生への配慮を、フォーマルな形式で通達することができた。一方で、配慮する余裕がないという教員の声も聞かれ、本学の障害支援の体制の整備が喫緊の課題となっている。

表 5-1 障害別合理的配慮依頼文書発行数（2022 年度）

種別	件数	内訳
精神疾患	6	適応障害 2
		双極性障害 2
		解離性障害 1
		不明 1
病弱・虚弱	2	過敏性腸症候群 1
		不明 1
発達障害	2	ASD 2
視覚障害	0	
言語聴覚障害	0	
肢体不自由	0	
不明	1	
合計	11	

表 5-2 学部別合理的配慮依頼文書発行数（2022 年度）

学科	件数
外国語学部	6
経済学部	0
不動産学部	4
HT 学部	1
保健医療学部	0
合計	11

2 新入生の精神健康度（UPI）調査と予防的介入

(1) UPI 検査の実施概要

実施日時	2022 年 3 月
呼び出し面接実施期間	2022 年 4 月 22 日（金）～5 月 31 日（火）
受検者数	894 名（学籍不明者 4 名を含む）
総平均点	15.4±10.7 点 n=890
自覚症状得点	13.2±10.9 点 n=890
呼び出し基準点	以下の 5 項目のいずれかに該当した者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自覚症状得点 30 点以上 ・ 嫌人得点 3 点以上 ・ 特記事項得点 3 点以上

	・希死念慮項目に反応あり
	・発達の修学困難チェック 20 点以上
呼び出し者数	154 名（全受験者の 17.3%）
来談者数	16 名（来談率 10.4%）
継続面接希望者	4 名

表 6 学科別の UPI 得点と修学困難度

学部	学科	人数 (人)	自覚症状得点		修学困難度		修学上の不器用さ		友人関係構築困難	
			平均値 (点)	標準偏 差 (点)	平均値 (点)	標準偏 差 (点)	平均値 (点)	標準偏 差 (点)	平均値 (点)	標準偏 差 (点)
外国語	日本語	77	14.2	10.7	10.7	5.8	7.3	3.9	5.4	4.2
	英米語	110	13.4	11.7	11.0	6.5	7.5	4.0	5.5	4.6
	中国語	41	17.6	9.9	11.3	5.3	7.4	4.0	5.9	3.8
経済	経済	325	12.2	10.8	10.4	6.3	7.3	4.3	4.9	4.2
不動産	不動産	178	13.0	10.8	10.9	5.5	7.7	3.9	5.0	4.2
HT	HT	89	13.9	11.6	9.9	5.3	7.1	3.5	4.5	3.9
保健医療	口腔保健	70	12.9	10.2	9.8	5.6	7.1	3.8	4.3	3.8
全体	合計	890	13.2	10.9	10.5	5.9	7.4	4.0	5.0	4.2

表 7 性別の UPI 得点と修学困難度

性別	人数 (人)	自覚症状得点		修学困難度		修学上の不器用さ		友人関係構築困難	
		平均値 (点)	標準偏差 (点)	平均値 (点)	標準偏差 (点)	平均値 (点)	標準偏差 (点)	平均値 (点)	標準偏差 (点)
女子	363	14.8	10.8	10.2	5.5	7.1	3.8	4.8	4.0
男子	525	12.1	10.9	10.8	6.2	7.6	4.2	5.1	4.4
その他	6	15.7	10.4	8.8	2.1	4.8	1.7	5.8	1.2

(2) UPI 得点

UPI は、正式には University Personality Inventory と呼ばれ、大学に入学した新入生の身体的、精神的健康状態を把握するための質問紙調査で 60 項目からなる。Web 調査により、ほぼ入学者全員に調査が実施された。未入力者には、後日の健康診断時に入力促された。

UPI 自覚症状得点の平均点は、全体で 13.2±10.9 点であった（表 6）。2022 年以降の自覚症状の得点は、高い傾向が続いている。性別では、女子の平均点 14.8 点が男子の平均点 12.1 点より有意に高かった。この傾向は、例年と同様である（表 7）。

(3) 発達的特性のスクリーニング

発達の修学困難チェック（10項目版）は、発達障がい傾向を有する学生を把握するために作成された尺度である。本学の平均得点は 10.5 ± 5.9 点、性別では、男子 10.8 ± 6.2 点、女子 10.2 ± 5.5 点で、性別による差は認められなかった。

発達の修学困難チェック（10項目版）を開発した九州大学による調査では、大学生の平均得点は 7.0 ± 5.5 点と報告されている。また、発達障害の診断を有する学生の平均得点の16点（カットオフポイント）を超える学生は34名（18.8%）であった。

発達の修学困難度チェック（10項目版）の平均得点が年々上昇している。下位尺度として、修学上の不器用さと対人関係構築の困難さがある。「対人」が意味するものは、友人、異なる学年の学生や大学職員も含まれている。新しい環境やコロナ禍で、対人関係の構築が困難となり、孤立しやすい状況に陥ることに留意する必要がある。講義関係で、グループワークやプレゼンテーションなどの活動に対して、心理的抵抗を示す学生も多い。呼び出し面接でのカウンセラーとの対話によって、具体的な対応等に見通しを得て、大学生活への効力感が高まっている学生の様子がかがわれた。

対人関係構築の困難さにおいて高値を示した学生は、支援訴求能力の乏しさと関連から、UPIの自覚症状との相関も強いことが確認されている。相談室のみならず、困難な状況を教職員が見抜き、支援につなげる努力が必要である。

(4) 呼び出し面接

呼び出し面接の対象となったハイリスク学生は154名（受験者全体の約17.3%）であった。呼び出し者のUPI合計得点は、 30.4 ± 9.4 点、自覚症状得点は、 28.8 ± 9.5 点、発達の修学困難度得点は、 17.3 ± 5.6 点であった。大学入学時には、環境の変化から不安が精神面や身体面に出現しやすく、さらにコロナ禍でのさまざまな困難が、ハイリスク者の割合を押し上げていた。UPI自覚症状得点の高値は、大学生活への不適応、不登校や休学および退学と関連している。

また、発達の修学困難度の得点も高値を示し、ベースに発達特性を有することが示唆された。こうした入学生のメンタルヘルスの悪化傾向については、注意深く観察し、フォローしていく必要がある。

呼び出し面接には最終的に16名の学生が来談した（来談率10.4%）。当該調査は、種々の健康問題を持つ学生への早期発見・早期介入につなげる目的がある。そのため、可能な限り入学初期の段階で実施した。呼び出し面談では、面接で語られた内容から、継続的なフォローが必要だと考えられる学生、問題所見が見受けられずフォローアップを必要としないと考えられる学生とをふるい分けした。来談した学生の多数は、新しい環境に対する不安や、感染の不安、友人関係構築の不全が、症状となって表出していた。また、通信制高校からの入学者、不登校体験や保健室登校体験者、深刻な状況が続く学生は、継続支援の対象となっていた。

3 ピア・サポート夏季集中セミナー〔学生支援課（学生支援担当）との共催事業〕

2022年度は、新型コロナウイルス感染症のため、活動を自粛した。

4 調査研究活動

<口頭発表>

樋口倫子：対話と共感が生み出す Well-being-ネットワーク型支援の現状と課題，第36回日本保健医療行動科学会，2022.

5 研修会参加

参加者：樋口 倫子

研修名：第56回学生相談セミナー in 広島

日 時：2022年9月8日（木）

場 所：広島県広島市中区橋本町 RCC 文化センター 610 会議室

主 催：日本学生相談学会

内 容：

午前中には福岡県立大学の奥田綾子先生による事例検討に参加し、午後には国際医療福祉大学の戸澤有為子先生の実例検討に参加した。両事例共に、発達障害の学生への支援事例で、障がいを持つ学生への合理的配慮について議論された。実際には、インフォーマルな配慮よりもフォーマルな合理的配慮が、より強力な意味合いとなり、今後はそれを求めていく必要がある。その一方で、多様性の尊重には包摂性が含まれる。その視点に立つと、学生らの個性が尊重されるように、周りに理解を求めていくことも、私たちの役目でもあると感じた。

また、9月のオンライン研修会で奥野光先生が述べた「学生相談は学生の悩みを聴くだけでなく、大切にしていることを話す場」という言葉が印象的だった。これにより、「学生との対話を重視し、彼らの能力を引き出し、寄り添う職種」であることを再確認した。

参加者：樋口 倫子

研修名：自傷行為・希死念慮の理解と援助

—『死にたい、消えたい』思いを抱える人たちとのカウンセリング

日 時：2022年10月13日（木）20：00～22：00

場 所：オンライン会場

主 催：原宿カウンセリングセンター

内 容：

- ・自傷行為、自殺の現状
- ・自傷行為、希死念慮の理解
- ・自傷行為と希死念慮のある人への対応
- ・自傷行為・希死念慮の家族支援

「死にたい、消えたい」「生きるのがつらい」という訴えのクライアント、リストカットなどの自傷行為に気づいたとき、オーバードーズへのカウンセリング対応を学んだ。「葛藤を抱えるクライアント」として相手を受け止め、問題の外在化を通して、共に問題解決を目指すナラティブ・アプローチ、自殺をとめる解決志向アプローチの理論と実践について、理解を深めた。

6 2022年度の学生相談室の振り返り

2022年度の学生相談室を振り返って

報告者 樋口倫子

学生相談室開設以来、来談者の延べ人数が過去最高となった。学生らの不安の現われである。相談に訪れる学生たちは、インターネット検索を通じて自分の状況を自己診断し、自傷行為に関する情報を容易に見つけては危険な状況に陥ったりする。カウンセラーたちは、専門家としてのアドバイスを提供するよりも、学生たちの話に耳を傾け、彼らの生きる世界を理解することに重点を置いてきた。なぜなら、専門的なアドバイスはインターネットで容易に得られるからである。

悩みとは、自らが価値を置くことへ見通しの喪失である。私たちが、相談室で聞かせていただくのは、学生が大切にしている願いや期待なのである。学生に興味を持ち、表現された言葉をのぞき、大切なものと、見失ったものの回復への見通しを一緒に探す有意義な時間である。

2021年5月に改正された障害者差別解消法は、2024年4月からの施行が予定され、私立大学にも合理的配慮の提供が法的な義務として課されてくる。2022年度は、保健管理センターの自発的な取り組みで11通発行された。個人の心理的なサポートのみでは、片手落ちとなり、学内には環境整備というサポートが求められる。その環境調整があってはじめて、学生らは自分の内面を向き合う安心感を得る。学内の組織的な合理的配慮の提供については、無関心な状況が続いている。学内の啓蒙と差し迫った組織的な体制づくりが喫緊の課題である。

2022年度の学生相談室を振り返って

報告者 林哲也

突然のコロナ禍に伴う授業のオンライン化と同様、対面授業への全面的な復帰は、学生にとって新たな適応を迫られるものでもあった。学生により対面、オンラインともに得手、不得手があるが、対面授業や通学そのものに苦手意識や課題を抱える学生には、先送りできていた問題と直面する事態となる。特に2年生、3年生は助走期間の乏しいまま、専門科目への取り組みや進路選択を迫られる時期に差しかかり、思い描いた学生生活とのギャップの中で苦悩する傾向がうかがえた。コロナ禍での学生生活の経験には一層の労いをもって、相談に臨む必要性を再認識した1年であった。

2022年度の学生相談室を振り返って

報告者 中嶋一恵

2022年度より全体的に対面での授業が再開され、学生同士、学生と教員との人間関係に問題を抱えている学生の相談が増えたと感じた。人との関わり方がわからず、感情のコントロールができないことに悩んだり、進路や授業についての悩みがあっても、学生や教員に相談できず相談室を訪れる学生が増えている傾向を感じた。また、心理面の問題や発達関連の問題のある学生に対して、学部学科の教員からの直接の依頼（同伴での来室）や相談も増え、情報共有しながら継続支援をするなど、連携の重要性を感じるが多かったように思う。

明海大学保健管理センター 学生相談室のご案内

保健管理センター内の学生相談室は、学生の皆さんが、大学生活を送るにあたって、気がかりや困りごとなどの相談に乗っています。悩みや気がかりは、自分の目標や理想があるから生じています。相談室では、皆さんの不安や気がかりのエネルギーが、希望やチャレンジへエネルギーとして変換されるように、共に考える伴走者として応援してまいります。

本年度は、樋口、遠藤、林、中嶋の4名のカウンセラー担当します。コロナウイルスの感染の拡大の予防のため、来室以外にも、自宅にいても相談ができるシステム（Zoomオンライン相談）も用意していますので、気軽に活用してください。保護者の方もご利用できます。電話かメールで、ご連絡ください。

予約方法

1. 電話予約
047-355-5287（月～金 9:00-17:00）
2. メール予約
msoudanyoyaku@meikai.ac.jp
お名前、希望する日、時間帯、メールアドレスを教えてください。折り返し連絡いたします。
3. 直接来室
不動産棟2階保健管理センターに、
直接予約を取りにきてください。

学生相談室
紹介動画



カウンセラー紹介

ひぐち のりこ
樋口 倫子

趣味 ランニング
ねこと遊ぶ

一言紹介

人はそれぞれが、独自の物語を生きています。
悩み事に立ち向かう時には、自分以外の誰かとの
対話が役立ちます。
一人で悩まず、気軽にお話を聞かせてください。



はやしてつや
林 哲也

趣味 考えごと
youtubeはしご
ジョギング

一言紹介

おしゃべり感覚でお越しください。
気楽に来てOK。緊張してもOKです。
できるだけありのままの気持ちで、お話いただけると
いいなと思っています。



なかしま かずえ
中嶋 一恵

趣味 いぬ・ねこのyoutubeをみる
神社めぐり

一言紹介

居心地の良いカフェに行くような感覚で、
ふわっと受け入れてもらいたい…
そんな気持ちになることはないですか。
もつれた糸を一人でほくことはなかなか難しいものです。
一緒に少しずつほいていきましょう。



えんどう ひろこ
遠藤 浩子

趣味 新しいことを知ること

一言紹介

ちょっと時間をかけて話を聞いてもらう経験、おすす
めです。唯一無二のあなたとお話できるのを楽しみ
にしています。



VII トレーナーズルーム

2022年度の利用状況は、下表のとおりである。

月	開室回数	性別			学年				教職員
		男性	女性	合計	1年	2年	3年	4年	
4	3	0	66	66	26	1	16	4	19
5	3	0	53	53	20	0	15	4	14
6	3	0	37	37	15	0	8	0	14
7	3	0	46	46	21	0	9	1	15
8	3	0	22	22	2	0	3	0	17
9	3	1	44	45	7	0	13	4	21
10	3	3	57	60	10	0	20	6	24
11	3	1	50	51	11	0	14	6	20
12	3	3	46	49	12	0	15	0	22
1	3	1	48	49	10	2	13	0	24
2	3	3	32	35	8	4	4	0	19
3	3	6	42	48	8	5	8	0	27
合計	36	18	543	561	150	12	138	25	236

利用人数は2021年度に比べ528人から561人に増加した。561人の内訳は学生325人、職員236人であった。利用が増加したのは職員で、学生は逆に若干減少した。

まず学生の利用に関して考察する。年間を通して練習前のウォーミングアップトレーニングをサポートした、女子バレーボール部の対応人数に特筆すべき傾向があった。対応人数が少ない月は、他校との合同練習や遠征などと重なり、トレーニングの時間が取れなかったのが理由である。授業の無い期間中にその傾向が多かった。また、授業期間に対応曜日が固定されていたため、チーム内でも決まった学生のみ対応となり、まったく顔を合わせることが無い学生が残念ながら半数近くいた。他の部は不明だが、女子バレーボール部は、故障後から復帰までのステップなどがチームで決まっていなため、復帰まで長引いている学生や悪循環に陥っている学生が見受けられた。ケガや故障に関しては、私自身は上記のような対応状況のためフォローしきれなかった。自己判断をせず病院に速やかにかかることを、マネージャーを通して指示した。その他の体育会では女子硬式庭球部と空手道部の学生の利用があった。これらに関しては、練習場所や時間帯がトレーナーズルームとマッチしていなかったこともあり、コーチの指示や学生支援課（学生支援担当）の紹介により利用が始まったが、自主練習期間のみの利用となった。

次に職員の利用に関して考察する。限られた休憩時間中に利用していただくために、最大3名同時利用を上限にして、複数人数に対応した。活動量の低下が不定愁訴の原因になっていると見受けられる人には、定期的な利用を勧めてセルフケアや運動指導を行った。これらが生活習慣になるように繰り返し指導をした。午後の業務に向かう前のリフレッシュにもなっていたように見受けられた。

最後に、競技スポーツはケガや故障のリスクがあるため、安全に競技ができる環境や、ケガをした際の復帰までのサポートが今以上に整うことを願う。

2021年度と重複するが、学内でAED講習会がある際には、職員だけでなく体育会所属学生も毎回受講するなど、学生支援課（学生支援担当）が各部に参加を呼びかけるなど協力をお願いしたい。安全

講習を継続することで部員全員に緊急時の知識と心得を身に付けていってもらえるような工夫が必要と考える。またマネージャーなどの担当者が緊急時の対応に不安がある際には、チームに必要な応急処置用品やその正しい使用方法を、保健管理センターで指導を受けられるようなシステムができるよう検討をお願いしたい。

VIII 保健管理センター概要

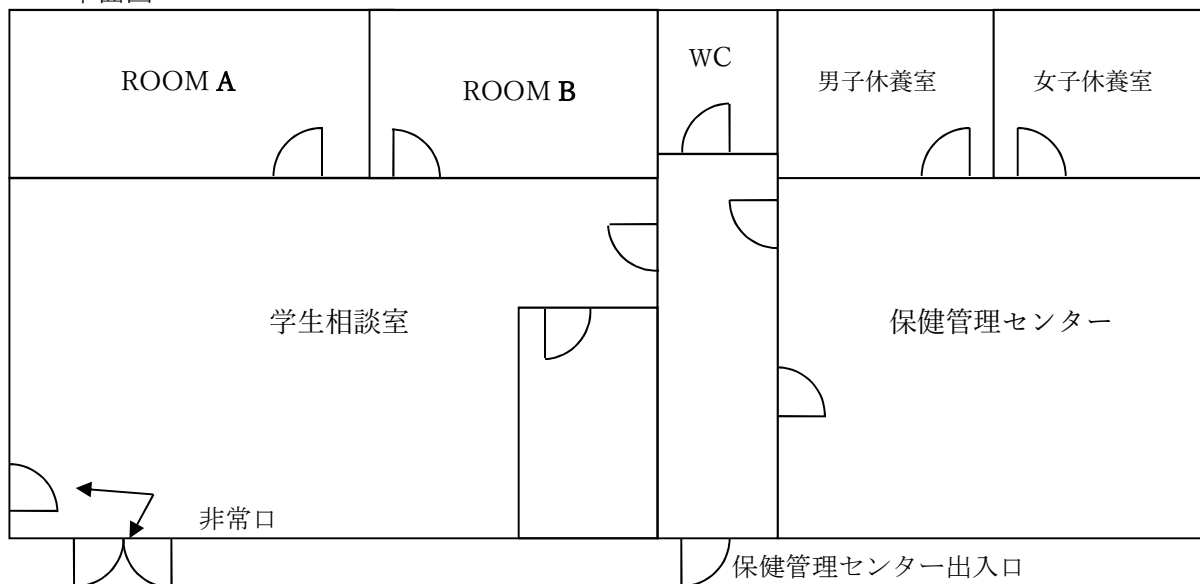
1 開設

1988年4月1日（昭和63年）

2 施設

第2管理・研究棟2階	保健管理センター	52.83 m ²
	学生相談室	95.00 m ²

平面図



3 関係職員

保健管理センター

所長	吉川 正芳	(保健医療学部教授・PDI 歯科医師)
医師	小林 滋	(学校医・産業医)
看護師	3名	
事務	1名	

学生相談室

公認心理師	樋口 倫子	(明海大学外国語学部教授)
公認心理師	遠藤 浩子	
公認心理師	林 哲也	
公認心理師	中嶋 一恵	

トレーナーズルーム

トレーナー	頼富 千恵子
トレーナー	大金 ユリカ

2022年度保健管理センター業務報告書（第35号）

2024年3月発行

編集発行：明海大学 浦安キャンパス

保健管理センター

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

TEL 047-355-5128 (FAX 同)

本報告書の全部又は一部の複写・複製・転記載及び記録媒体への入力等を禁じます。これらの許諾については、保健管理センターにご連絡ください。

